令和6年度　2月号　川口市立辻小学校　　令和7年2月3日

辻小学校だより

学校教育目標　　○学ぶ子（知）　○やさしい子（徳）　○元気な子（体）

特別でない支援教育を目指して

～辻小学校では４月から特別支援学級が設置されます～

校長　近藤　百合

２月になりました。２月は１年の中でも短い月ですから、あっという間に逃げてしまうともいわれます。２月４日は「春が立つ」と書いて春の季節の始まりとされる「立春」といわれる日です。昔の暦では、この頃が１年の始まりとされていました。江戸時代頃からは、毎年２月４日の立春の前日を「節分」というようになったそうです。季節の変わり目は邪気が入りやすいといわれ、それを除くために豆まきをしたり、飾りをつけたりします。最近は、幸運を招く方角を向いて太巻きを丸かじりする風習も人気となっています。暖かい春が近づき始めたこの季節、心の中に住む、見えない悪い鬼を「鬼は外」で追い出し、新鮮な気持ちで春を迎えたいものですね。

さて、辻小学校は令和７年４月に特別支援学級が新たに設置されます。保護者のみなさまには１学期の懇談会の折に「特別支援学級について」、お話をさせていただきました。子供たちにも１２月の講話朝会で特別支援学級の設置と特別支援学級とはどんなクラスなのか、丁寧にお話をしました。学級の名称については、教職員と子供たちのアンケートを行い、いくつかの候補の中から「なないろ学級」に決定しました。子供たちには２月の講話朝会で発表します。

特別支援学級というとその言葉から「特別に何かをする」とか「特別な子がいる集団」のイメージが強く、マイナスイメージにとらわれやすい傾向が見られます。得意なこと、不得意なことは誰にでもあります。不得意なことを得意にしようと自分で努力することができる子も努力そのものが苦手な子もいます。得意なこともっと得意になるように工夫できる子も今できることに満足する子もいます。苦手なことがたくさんある子は苦手なことばかりに目がいってしまい、褒められる経験が少ないため、自己肯定感が低くなってしまいます。

特別支援学級では、できることはよりできるように、苦手なことはじっくりその子のペースで苦手さを軽減していくことを行っていきます。子供たちの個性を生かしながら能力を伸ばすことが期待できます。特別支援学級の子供たちの中には、努力そのものが苦手な子もいます。だからこそじっくりということが大事なのです。通常学級のように多い人数の中では一人一人に合った「じっくり」が難しい場合もあります。特別支援学級の子供たちには「じっくり向き合って学習を進める」ことを行っていきます。

子供たちの中でできることは特別支援学級での学習に限らず、通常学級での学習も行います。子供たちはそのことによってできることをしっかり伸ばすこともできます。学級の子供たちには様々な環境を通して、「できた」と感じる場面を増やすことも大切なことなのです。

「ユニバーサルデザイン」の考え方があります。様々な人が使いやすい環境づくりやそれを実現するための過程のことです。この考えは、「特別支援教育」が「特別でない支援教育」であることにもつながります。特別支援学級も「特別でない支援学級」を目指し、辻小学校の「特別でない支援教育」を推進していく基としていきたいです。

辻小学校のホームページを是非、ご覧ください。

学校の教育活動等随時、更新しております。「辻小学校」で検索いただくか、右の QR コードからも、閲覧することができます。

子供たちの日常的な学習の様子もご覧ください。

学校ホームページ　http://tujisyou.official.jp/